



# 第3章



「ショートアクティビティ編」

## グループをつくる

合わせてぴったり

時間：15分

### ねらい

参加者同士が互いに言葉をかけ合いながら活動することで、相手を尊重することの大切さに気付きます。和やかな雰囲気の中で協調性を高める仲間づくりをします。

※ 絵や写真等を、1班の人数分に切り分けておきます。同様にして、グループ数分用意します。



※ 1班5人組の例

- 1 絵や写真を一人1枚取ります。
- 2 同じ種類の絵や写真を持っている人同士で絵を完成させ、グループをつくります。

【準備物】  
絵や写真等（グループ数分）

### 実施の際のポイント

例えば、外国の風景とその国の主な挨拶を用いると、外国人の人権について考えるきっかけにすることができます。



街中の風景で、人権に関するものが写った写真（例：点字ブロック）なども有効です。

参加人数や対象に応じて、完成版を提示するとよいでしょう。

人権の視点を生かした写真等を用いたときは、内容について説明を加え、グループで感想を話し合うようにします。

大切な日ライン（※ネームライン）

時間：10分

### ねらい

言葉を使わなくても互いにコミュニケーションがとれることを体験できます。活動をとおして、相手を尊重することの大切さを確認します。

- 1 「大切な日」を思い浮かべます。
- 2 言葉を使わずに、1月1日から順に、日付順に並びます。
- 3 並んだ順に日付を確認し、グループをつくります。

### ※ネームラインの場合

- 1 言葉を使わずに、名前を「あ」から五十音順に並びます。
- 2 並んだ順に名前を確認し、グループをつくります。

【準備物】  
特になし

### 実施の際のポイント

誕生日や〇〇記念日などを例に挙げると、「大切な日」について学習者がイメージしやすくなります。

間違わずに並べたときは、お互いに拍手して達成感を味わいましょう。もし間違えてしまったときは、言葉を用いないコミュニケーションの奥深さや他者理解の大切さを確認し合ひましょう。

学習者が迷わないよう、並ぶ順序が名前なのかフルネームなのかをきちんと伝えます。

## ジャンケンウェーブ

時間：10分

### ねらい

学習の雰囲気づくりをしながら、人間関係の心地よさに気付きます。

- 1 2人組になってジャンケンをします。勝った人は手を挙げて喜びながら振り返り、負けた人は勝った人の肩に手をのせてつながります。
- 2 つながった列の先頭同士がジャンケンします。勝った人の列は、先頭から順に手を挙げて喜びながら後ろに振り返ります。負けた列は勝った列の後ろにつながります。
- 3 列が一つになるまで繰り返します。
- 4 並んだ順番を基に、グループをつくります。

【準備物】  
特になし

### 実施の際のポイント

勝った列の前後が変わるので、実施前に例を示します。



一度負けてしまうと先頭になれないジャンケン列車と違い、この活動では一度負けても先頭になることがあります。最後に先頭になった人に感想を聞くとよいでしょう。

## 安心フルーツバスケット

時間：15分

### ねらい

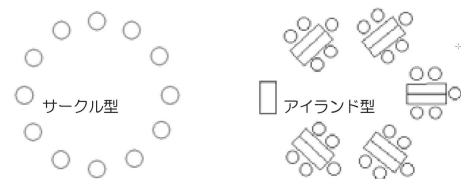
学習者の緊張感を取り除きながらコミュニケーションを図ります。また、グループを編成する際にも役立ちます。

- 1 いすに座ります。
- 2 「安心フルーツバスケット」のルールを聞きます。
  - ・質問は全て進行役がする。
  - ・質問に該当する人は席を移動する。  
(円形なら両隣、アイランド型なら同グループ内の移動は避ける)
  - ・席は人数分用意する。  
(座れない人がいないから安心)
- 3 進行役の質問に該当する人は席を移動します。
  - ・質問は、該当者がいそうなものにする。  
例：「朝食がごはんだった人」  
※1問ごとに何人かインタビューします。
- 4 移動した人・動かなかった人のそれぞれが、理由を発表します。
- 5 3・4を何度か繰り返した後、グループをつくります。

【準備物】  
人数分のいす

### 実施の際のポイント

会場はどちらの形態でも実施できます。



学習者の属性や、この後に続く活動を考慮して、個別の人権問題を取り上げることできます。

例：女性の人権について考える

- ①「食事の準備や片付けは主に自分が行う」
- ②「子どもの具合が悪いときは、母親が看病する方がよい」
- ③「来客時、お茶を出すのは女性がよい」